

浜の活力再生プラン
(第2期)

1 地域水産業再生委員会 ID1123008

組織名	那智勝浦町地域水産業再生委員会
代表者名	会長 在仲 靖二

再生委員会の構成員	宇久井漁業協同組合 紀州勝浦漁業協同組合 和歌山東漁業協同組合（浦神支所・那智支所） 那智勝浦町 那智勝浦町水産振興会 那智勝浦町観光協会 南紀勝浦温泉旅館組合 南紀くろしお商工会
オブザーバー	和歌山県漁業協同組合連合会 和歌山県東牟婁振興局

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	イセエビ刺網漁業者数 宇久井漁協 19名 紀州勝浦漁協 35名 和歌山東漁協那智支所 3名 和歌山東漁協浦神支所 28名 計 85名 採貝・採介藻漁業 宇久井漁協 2名 紀州勝浦漁協 18名 和歌山東漁協那智支所 16名 和歌山東漁協浦神支所 12名 計 48名 合計 133名
-------------------	---

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

那智勝浦町は本州最南端和歌山県の南東部に位置し、熊野灘に面している。沖合には黒潮が流れており温暖な海域で、黒潮からの暖水流入により沿岸部との境界に形成される潮境には、浮魚類の好漁場が形成される。沿岸に生息する魚介類の種類も豊富で、イセエビ刺網漁業、採貝・採介藻漁業を中心に様々な漁業種類が営まれている。

一方、漁業者の高齢化と後継者不足による漁業者人口減少が著しく、漁業センサスによると、那智勝浦町の漁業就業者数は2008年（250人）から2018年（165人）と65%減少している。

漁場環境は、2017年から始まった黒潮大蛇行の影響によって沿岸域へ暖水が流れ込み、高水温傾向が続いている。また、河口付近の漁場では、2011年の水害以降、河川工事で発生する砂泥の流出による漁業や生物への影響が続いている。また、多くの魚種では魚価が低迷し、燃油単価も高い状態が続き、漁家経営は依然として厳しい状況である。

さらに、近年、イセエビ、アワビ、トコブシ等の密漁が横行し悪質化、組織化している。漁業法の改正による密漁厳罰化に伴い、漁業者も自ら取締や監視を強化し、不法、悪質な密漁をなくしたい。

(2) その他の関連する現状等

那智勝浦町地域水産業再生委員会が構成員となっている南紀黒潮広域水産業再生委員会において、イセエビのブランド化の取組をすすめており、周辺地域一体となって、ブランド名「南紀黒潮イセエビ」のPR中である。令和元年の取組では、地元消費のため、イセエビ料理を提供する宿泊施設と店舗を網羅したグルメマップを作製、配布してPRを実施し、イセエビの知名度が向上している。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

I 資源管理の強化

①紀州勝浦漁協においては、和歌山県漁業調整規則による規制（操業期間9月16日から翌年4月30日）に加え、自主的に1月31日以降、及び毎月8日間の休業を実施した。しかし、イセエビの漁獲量は平成28年以降低調に推移した。宇久井漁協は、和歌山県漁業調整規則による規制（体長15cm以下の採捕制限）に加え、自主的に体長16.5cm以下の採捕制限を行い資源管理に努めた。しかし、漁獲量は、平成28年以降、低調に推移し、とくに平成30年は最も少ない漁獲量となった。そのため、1期浜プラン4年目に予定していた、漁獲枠の25kg/人の増加は資源の回復まで見送ることとした。また、続く令和元年も、漁獲量の少ない状況で推移し、漁獲されるイセエビのサイズが小さい状況が継続している。黒潮の流路が変わったことにより、沿岸域へのイセエビ資源の加入状況が変わった可能性が

高いと考えられる。今後は、試験研究機関や太平洋沿岸の各県から情報収集し、現在の海況、資源状況に応じた資源管理の手法の再検討を行う。

②つきいそについては、平成28年度に、水産業競争力強化施設整備緊急対策事業により、宇久井、勝浦地先に、各4,500㎡実施した。当該つきいそでのイセエビ刺網漁は、令和2年から解禁となる。これに先んじ、令和元年度漁期に試験操業を行い、効果を算定する。また、令和元年に水産業強化支援事業により、浦神、那智地先に、各1,450㎡実施したつきいそは、令和5年に禁漁が解除となる。そのため、前年の令和4年に試験操業を行い、効果を算定する予定である。

②岩盤の清掃の取組では、和歌山東漁協那智支所において、ヒジキが生育している場所に繁茂する、ヒジキ以外の藻類を除去する取組を行った。このことにより、ヒジキの種が岩盤に定着しやすくなり、ヒジキの生育面積の増加がみられた。また、水産試験場と連携して、ヒジキが生育していない場所の岩盤を清掃した後、ヒジキの母藻を入れたスポアバックをブロックに付着させ、新たなヒジキ群落を増やす試みを行った。この結果、試行箇所によっては、スポアバック周辺に新たにヒジキが生えたケースがみられたが、そのようにはならないケースも見られた。取組全体としては、他海域同様、高水温の影響とみられるヒジキの減少傾向に歯止めをかけることができなかった。今後は、高水温に適応する株や、代替となる藻類の移植についての情報収集と試験も検討する。

アワビ、トコブシの稚貝放流は毎年実施した。しかし、平成28年以降低調な漁獲が続く、平成30年は統計を整備した平成11年以降最低の漁獲量であった。アワビ、トコブシ資源の減少に関しては、高水温傾向の他、毎年の台風で河川から流入する泥の量が河川工事の影響で多いことも影響していると考えられる。今後は、泥の影響を軽減するため、河川工事関係者らとの協議を継続し、工法の検討など、改善のため働きかけを継続する。

藻場造成については、宇久井、勝浦港湾の様々な条件の場所で、アワビ、トコブシの餌となるカジメの移植試験を実施した。カジメの母藻を「玉ねぎ袋」に入れて設置し、さらに食害生物からカジメを守る「カゴ」の有無による、食害生物影響評価も行った。この結果、食害防止カゴの中にあってもカジメが繁茂しなかった場所は、藻場に適さない環境であり、カゴから出したら食害をうける場所については、食害対策を行うことで藻場造成が可能であることが判明した。今後も試験を継続し、適所に藻場を造成する。

II 漁獲物の販売促進

①イベントを利用した販売促進では、毎年11月に実施している「いせえび祭り」において、1日で数千人の来客がみられた。いせえび祭りにおける直販では、浜値+1,000円のイセエビが毎年完売であり、目標を達成することができた。さらに、高速道路の延伸やPR効果により、県外からの来訪客も増加しつつある。街中でイセエビ料理を提供する体制を確立する取組は、2期浜プランで、引き続き強化していく必要がある。

②ブランド化の取組として、全漁連のプライドフィッシュに登録を行った。プライドフィッシュのページでは、和歌山の魚「冬」の魚として掲載された。このため、「那智勝浦町」の産

品という PR の方向性と変わってしまい、魚価アップにつなげる取組に展開することができなかった。今後は、南紀黒潮広域水産業再生委員会でブランド化の取組を行っている「南紀黒潮イセエビ」名での地域来訪客対象の PR を行い、知名度アップ、魚価アップを行う予定である。

また、近年、成功事例の多い「ご当地」、いわゆる地域限定の付加価値をつけた商品を開発し販売することで、収益をあげることも効果があると考え、紀州勝浦漁協では、わかめの栽培を試験的に開始した。2期浜プランではこのわかめを「地元食材の観光地消費促進」の商品とし、高付加価値の供給方法を模索していく。

III 漁獲経費の削減

- ①スロー航行については、漁場の輪番制により、好漁場に先着する必要性がなくなり、実施できた。船底清掃は、全漁業者が、年間1～5回の上架による清掃を行い、経費削減に努めた。
- ②紀州勝浦漁協のイセエビ刺網漁業者は、近場のイセエビ漁場に小型イセエビ及び雌イセエビの再放流を実施し、高齢者でも漁獲しやすい地先の定着性水産物の資源増大を図り、漁場までに要する燃料使用量も削減できた。
- ③和歌山東漁協那智支所の採藻漁業者は、ヒジキ漁場の拡大・造成のため磯清掃、スポアバック設置等に取り組み、高齢者でも漁獲しやすい地先の定着性水産物の資源増大を図ることで徒歩で採集可能な場所への漁場形成を行った。しかし、高水温の影響による海域全体の不漁の影響でひじきの漁獲量は減少した。
- ④全漁協のイセエビ刺網漁業者は、漁具のこまめな補修と、漁網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用の軽減を実施した。また、荒天時の出漁を制限することにより事故の防止と漁具の過度な損傷防止に努めた。
- ⑤全漁協のイセエビ刺網漁業者は、これまで漁場を先着順で決めていたため出漁時に高速航行を行っていたが、漁場情報を共有化及び、組ごとに漁場を輪番で活用することで、出漁時の高速航行を無くし、燃料費を削減した。

IV 海的环境整備による安全で持続的な操業の確保については、漁業者、関係者が一体となり、定期的な浜掃除や台風後の集中的な海岸漂着物除去の取組を行い、漁場環境を良好に保つことができた。

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

I 資源管理の強化

- ①藻場造成やつきいそにより魚介類の生息環境を整え、そこへ種苗放流する。
- ②漁場の岩盤清掃や漂着物の回収処理を行うことで、
ヒジキを中心とした有用藻類等の生育環境を良好に保つ
- ③漁獲状況に対応した柔軟な資源管理方針の確立
- ④密漁監視の強化

II 漁獲物の販売促進

- ① イベントを利用した販売促進
- ② 「地域限定」の提供による付加価値向上
- ③ 観光客を主対象とした地元消費量の増加による収益向上

III 漁業経費の削減

- ① 船底清掃や減速航行による燃料コストの削減
- ② 再放流場所の選定や漁場の共有化による漁業経費の削減
- ③ 漁具・機器・設備等のメンテナンス実施によるコスト削減

IV 新規漁業就業者対策

県や県漁連、ハローワーク等と連携し、地域内外から新規就業者を獲得する

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

海洋生物資源の保存及び管理に関する法律、和歌山県海面漁業調整規則、資源管理計画、漁業権行使規則

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和2年度）所得8%向上

漁業収入向上のための取組	<p>I 資源管理の強化</p> <p>①勝浦漁協、和歌山東漁協浦神支所のイセエビ刺網漁業者は、和歌山県漁業調整規則による規制（操業期間9月16日から翌年4月30日）に加え、自主的に1月31日以降、及び毎月10日間の休業を実施する。</p> <p>宇久井漁協は、和歌山県漁業調整規則による規制（体長15cm以下の採捕制限）に加え、自主的に体長16.5cm以下の採捕制限を行う。</p> <p>全漁協のイセエビ刺網漁業者は、1期浜プランと同じく、イセエビ等の増殖礁周辺への小型イセエビ、雌イセエビ再放流を行い資源量の増大を図る。</p> <p>那智勝浦町はイセエビ漁場造成のため、紀州勝浦漁協、宇久井漁協の漁場につきいそを実施する。つきいそ漁場はイセエビが定着するまでの3年間、禁漁とする。</p> <p>紀州勝浦漁協、宇久井漁協の漁業者は、平成28年度に行ったつきいそによるいせえび漁場を解禁し、いせえびの漁獲量の増加を図る。</p> <p>②全漁協の採貝、採介藻漁業者は、磯焼けが進む漁場において、ヒジキおよび貝類の餌となるカジメ場を中心とした漁場清掃を行い、漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>紀州勝浦漁協の採貝、採介藻漁業者は、アワビ、トコブシの稚貝放流により採貝漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>③宇久井漁協のイセエビ刺網では、1期浜プランにおいて、平成30年に漁獲量が減少し、漁獲枠増大を控えた。2期浜プラン期間では、漁獲状況に応じて操業期間を短縮することで、より積極的な保護増大に取り組む。5年目の令和6年に、10kg/人の漁獲量増大を目指す。</p> <p>④全漁業者は、周年、陸岸側（磯からの密漁）、沖側（船舶を使用した釣りや潜水による密漁）の監視を定期的に行い、密漁によるイセエビ、アワビ類、なまこ類の減少を阻止する。また必要に応じ警察等の保安機関と連携し検挙する。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>①那智勝浦町水産振興会が主催する『いせえび祭り』において、ブランド「南紀黒潮イセエビ」を試食等でPRするとともに、集まった来客に直販を実施する。直売については、「浜値+1,000円」を目標にし、漁業者の所得向上に努める。</p> <p>② 紀州勝浦漁協では、1期浜プラン中に着手した、わかめの試験栽培～加工、</p>
--------------	--

	<p>販売の試験を継続し、目標年には、500キロ/年を宿泊施設等で提供する。</p> <p>③町内の旅館を主対象として、地域ブランド「南紀黒潮イセエビ」を、那智勝浦町の秋の味覚として料理や宿泊プランに採用するよう働きかける。地元消費増及び単価向上により漁業者の所得向上を目指す。</p> <p>Ⅲ新規漁業就業者対策</p> <p>全漁業者は、県や県漁連、ハローワーク等と連携し、地域内外から新規就業者を獲得する。</p> <p>以上の取組により、約5%の所得向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>Ⅳ漁業経費の削減</p> <p>①全漁業者は、1期浜プランに続き、船底清掃による省燃油活動を徹底する</p> <p>②紀州勝浦漁協のイセエビ刺網漁業者は、小型イセエビ及び雌イセエビの再放流行う場合、近場の漁場や波の影響を受けにくい漁場を選定することで、漁場までに要する燃料使用量を削減する。</p> <p>③全漁協のイセエビ刺網漁業者は、漁具のこまめな補修と、漁網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。また、荒天時の出漁を制限することにより事故の防止及び漁具の摩耗を防ぐ。</p> <p>以上の取組により、3%程度の所得向上を目指す。</p>
活用する支援措置等	<p>那智勝浦町稚貝稚魚放流事業、那智勝浦町水産振興会事業、那智勝浦町観光地魅力アップ事業、水産業強化支援事業（つきいそ）</p>

2年目（令和3年度） 所得8%向上

漁業収入向上のための取組	<p>Ⅰ 資源管理の強化</p> <p>①勝浦漁協、和歌山東漁協浦神支所のイセエビ刺網漁業者は、和歌山県漁業調整規則による規制（操業期間9月16日から翌年4月30日）に加え、自主的に1月31日以降、及び毎月10日間の休業を実施する。宇久井漁協は、和歌山県漁業調整規則による規制（体長15cm以下の採捕制限）に加え、自主的に体長16.5cm以下の採捕制限を行う。</p> <p>全漁協のイセエビ刺網漁業者は、イセエビ等の増殖礁周辺への小型イセエビ、雌イセエビ再放流を行い資源量の増大を図る。</p> <p>②全漁協の採貝、採介藻漁業者は、磯焼けが進む漁場において、ヒジキおよび貝類の餌となるカジメ場を中心とした漁場清掃を行い、漁場資源の維持・増大に努める。</p>
--------------	---

	<p>和歌山東漁協那智支所の採貝、採介藻漁業者は、ヒジキ漁場の拡大・造成のため岩盤清掃、スポアバック設置等に取り組み、ヒジキの増収による所得向上を図る。また浦神支所での実施個所について検討を行う。</p> <p>紀州勝浦漁協の採貝、採介藻漁業者は、アワビ、トコブシの稚貝放流により採貝漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>③宇久井漁協のイセエビ刺網では、引き続き漁獲状況に応じて操業期間を短縮し、積極的な保護増大に取り組む。</p> <p>④全漁業者は、周年、陸岸側（磯からの密漁）、沖側（船舶を使用した釣りや潜水による密漁）の監視を定期的に行い、密漁によるイセエビ、アワビ類、なまこ類の減少を阻止する。また必要に応じ警察等の保安機関と連携し検挙する。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>①那智勝浦町水産振興会が主催する『いせえび祭り』において、ブランド「南紀黒潮イセエビ」を試食等でPRするとともに、集まった来客に直販を実施する。直売については、「浜値+1,000円」を目標にし、漁業者の所得向上に努める。</p> <p>②紀州勝浦漁協では、1期浜プラン中に着手した、わかめの試験栽培～加工、販売の試験を継続する。収穫されたわかめは、「にぎわい広場」「いせえび祭り」「まぐろ祭り」等の直販で試行販売する。</p> <p>③町内の旅館を主対象として、地域ブランド「南紀黒潮イセエビ」を、那智勝浦町の秋の味覚として料理や宿泊プランに採用するよう引き続き働きかける。1年目の成果を踏まえて方法を検討する。</p> <p>III 新規漁業就業者対策</p> <p>全漁業者は、県や県漁連、ハローワーク等と連携し、地域内外から新規就業者を獲得する。</p> <p>以上の取組により、約5%の所得向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>IV 漁業経費の削減</p> <p>①全漁業者は、船底清掃による省燃油活動を徹底する</p> <p>②紀州勝浦漁協のイセエビ刺網漁業者は、近場の漁場や波の影響を受けにくい漁場に小型イセエビ及び雌イセエビの再放流を行い、漁場までに要する燃料使用量を削減する。</p> <p>③全漁協のイセエビ刺網漁業者は、漁具のこまめな補修と、漁網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。また、荒天時</p>

	<p>の出漁を制限することにより事故の防止及び漁具の摩耗を防ぐ。</p> <p>以上の取組により、3%前後の所得向上を目指す。</p>
活用する支援措置等	那智勝浦町稚貝稚魚放流事業、那智勝浦町水産振興会事業、那智勝浦町観光地魅力アップ事業

3年目（令和4年度）所得10%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>I 資源管理の強化</p> <p>①勝浦漁協、和歌山東漁協浦神支所のイセエビ刺網漁業者は、和歌山県漁業調整規則による規制（操業期間9月16日から翌年4月30日）に加え、自主的に1月31日以降、及び毎月10日間の休業を実施する。宇久井漁協は、和歌山県漁業調整規則による規制（体長15cm以下の採捕制限）に加え、自主的に体長16.5cm以下の採捕制限を行う。</p> <p>全漁協のイセエビ刺網漁業者は、イセエビ等の増殖礁周辺への小型イセエビ、雌イセエビ再放流を行い資源量の増大を図る。</p> <p>②全漁協の採貝、採介藻漁業者は、磯焼けが進む漁場において、ヒジキおよび貝類の餌となるカジメ場を中心とした漁場清掃を行い、漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>和歌山東漁協那智支所・浦神支所の採貝、採介藻漁業者は、ヒジキ漁場の拡大・造成のため岩盤清掃、スポアバック設置等に取り組み、ヒジキの増収による所得向上を図る。</p> <p>紀州勝浦漁協の採貝、採介藻漁業者は、アワビ、トコブシの稚貝放流により採貝漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>③宇久井漁協のイセエビ刺網では、引き続き漁獲状況に応じて操業期間を短縮し、積極的な保護増大に取り組む。</p> <p>④全漁業者は、周年、陸岸側（磯からの密漁）、沖側（船舶を使用した釣りや潜水による密漁）の監視を定期的に行い、密漁によるイセエビ、アワビ類、なまこ類の減少を阻止する。また必要に応じ警察等の保安機関と連携し検挙する。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>①那智勝浦町水産振興会が主催する『いせえび祭り』において、ブランド「南紀黒潮イセエビ」を試食等でPRするとともに、集まった来客に直販を実施する。直売については、「浜値+1,000円」を目標にし、漁業者の所得向上に努める。</p> <p>②紀州勝浦漁協では、わかめの試験栽培～加工、販売の試験を継続する。収</p>
---------------------	--

	<p>穫されたわかめは、「にぎわい広場」「いせえび祭り」「まぐる祭り」等の直販で試行販売する他、収量に応じて宿泊施設や飲食店での期間限定提供を行う。</p> <p>③町内の旅館を主対象として、地域ブランド「南紀黒潮イセエビ」を、那智勝浦町の秋の味覚として料理や宿泊プランに採用するよう引き続き働きかける。2年目の成果をもとに参画店舗増加を促す。</p> <p>Ⅲ新規漁業就業者対策</p> <p>全漁業者は、県や県漁連、ハローワーク等と連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p> <p>以上の取組により、7%以上の所得向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>Ⅳ漁業経費の削減</p> <p>①全漁業者は、船底清掃による省燃油活動を徹底する</p> <p>②紀州勝浦漁協のイセエビ刺網漁業者は、近場の漁場や波の影響を受けにくい漁場に小型イセエビ及び雌イセエビの再放流行い、漁場までに要する燃料使用量を削減する。</p> <p>③全漁協のイセエビ刺網漁業者は、漁具のこまめな補修と、漁網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。また、荒天時の出漁を制限することにより事故の防止及び漁具の摩耗を防ぐ。</p> <p>以上の取組により、3%前後の所得向上を目指す。</p>
活用する支援措置等	那智勝浦町稚貝稚魚放流事業、和歌山県磯根漁場再生事業、那智勝浦町水産振興会事業、那智勝浦町観光地魅力アップ事業

4年目（令和5年度） 所得11%向上

漁業収入向上のための取組	<p>I 資源管理の強化</p> <p>①勝浦漁協、和歌山東漁協浦神支所のイセエビ刺網漁業者は、和歌山県漁業調整規則による規制（操業期間9月16日から翌年4月30日）に加え、自主的に1月31日以降、及び毎月10日間の休業を実施する。</p> <p>和歌山東漁協浦神支所、那智支所のイセエビ刺網漁業者は、令和元年度に行ったつきいそによるいせえび漁場を解禁し、いせえびの漁獲量の増加を図る。</p> <p>宇久井漁協は、和歌山県漁業調整規則による規制（体長15cm以下の採捕制限）に加え、自主的に体長16.5cm以下の採捕制限を行う。</p> <p>全漁協のイセエビ刺網漁業者は、イセエビ等の増殖礁周辺への小型イセエビ、雌イセエビ再放流を行い資源量の増大を図る。</p>
--------------	--

	<p>②全漁協の採貝、採介藻漁業者は、磯焼けが進む漁場において、ヒジキおよび貝類の餌となるカジメ場を中心とした漁場清掃を行い、漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>和歌山東漁協那智支所・浦神支所の採貝、採介藻漁業者は、ヒジキ漁場の拡大・造成のため岩盤清掃、スポアバック設置等に取り組み、ヒジキの増収による所得向上を図る。</p> <p>紀州勝浦漁協の採貝、採介藻漁業者は、アワビ、トコブシの稚貝放流により採貝漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>③宇久井漁協のイセエビ刺網では、引き続き漁獲状況に応じて操業期間を短縮し、積極的な保護増大に取り組む。</p> <p>④全漁業者は、周年、陸岸側（磯からの密漁）、沖側（船舶を使用した釣りや潜水による密漁）の監視を定期的に行い、密漁によるイセエビ、アワビ類、なまこ類の減少を阻止する。また必要に応じ警察等の保安機関と連携し検挙する。</p> <p>II 漁獲物の販売促進</p> <p>①那智勝浦町水産振興会が主催する『いせえび祭り』において、ブランド「南紀黒潮イセエビ」を試食等でPRするとともに、集まった来客に直販を実施する。直売については、「浜値+1,000円」を目標にし、漁業者の所得向上に努める。</p> <p>②紀州勝浦漁協では、わかめの生産～販売について収量に応じ、宿泊施設や飲食店における「期間限定」メニューに挿入し、漁業者の収益向上の見込みをたてる。また、多く収穫されたものがあれば、「にぎわい広場」等の直販でも限定販売する。</p> <p>③町内の旅館を主対象として、地域ブランド「南紀黒潮イセエビ」を、那智勝浦町の秋の味覚として料理や宿泊プランに採用するよう引き続き働きかける。3年目の成果をもとに町内の大手観光宿泊所全店の参画を促す。</p> <p>III 新規漁業就業者対策</p> <p>全漁業者は、県や県漁連、ハローワーク等と連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p> <p>以上の取組により、8%以上の所得向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>IV 漁業経費の削減</p> <p>①全漁業者は、船底清掃による省燃油活動を徹底する</p> <p>②紀州勝浦漁協のイセエビ刺網漁業者は、近場の漁場や波の影響を受けにく</p>

	<p>い漁場に小型イセエビ及び雌イセエビの再放流を行い、漁場までに要する燃料使用量を削減する。</p> <p>③全漁協のイセエビ刺網漁業者は、漁具のこまめな補修と、漁網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。また、荒天時の出漁を制限することにより事故の防止及び漁具の摩耗を防ぐ。</p> <p>以上の取組により、3%前後の所得向上を目指す。</p>
活用する支援措置等	那智勝浦町稚貝稚魚放流事業、和歌山県磯根漁場再生事業、那智勝浦町水産振興会事業、那智勝浦町観光地魅力アップ事業

5年目（令和6年度） 所得12%向上

漁業収入向上のための取組	<p>I 資源管理の強化</p> <p>①勝浦漁協、和歌山東漁協浦神支所のイセエビ刺網漁業者は、和歌山県漁業調整規則による規制（操業期間9月16日から翌年4月30日）に加え、自主的に1月31日以降、及び毎月10日間の休業を実施する。</p> <p>全漁協のイセエビ刺網漁業者は、イセエビ等の増殖礁周辺への小型イセエビ、雌イセエビ再放流を行い資源量の増大を図る。</p> <p>紀州勝浦漁協、宇久井漁協のイセエビ刺網漁業者は、令和2年度に行ったつきいそによるいせえび漁場を解禁し、いせえびの漁獲量の増加を図る。</p> <p>宇久井漁協は、和歌山県漁業調整規則による規制（体長15cm以下の採捕制限）に加え、自主的に体長16.5cm以下の採捕制限を行う。</p> <p>②全漁協の採貝、採介藻漁業者は、磯焼けが進む漁場において、ヒジキおよび貝類の餌となるカジメ場を中心とした漁場清掃を行い、漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>和歌山東漁協那智支所・浦神支所の採貝、採介藻漁業者は、ヒジキ漁場の拡大・造成のため岩盤清掃、スポアバック設置等に取り組み、ヒジキの増収による所得向上を図る。</p> <p>紀州勝浦漁協の採貝、採介藻漁業者は、アワビ、トコブシの稚貝放流により採貝漁場資源の維持・増大に努める。</p> <p>③宇久井漁協のイセエビ刺網では、引き続き漁獲状況に応じて操業期間を短縮し、積極的な保護増大に取り組む。また、4年間の禁漁効果による資源状況を確認し、目標である漁獲枠拡大（10kg/人）を行う。</p> <p>④全漁業者は、周年、陸岸側（磯からの密漁）、沖側（船舶を使用した釣りや潜水による密漁）の監視を定期的に行い、密漁によるイセエビ、アワビ類、なまこ類の減少を阻止する。また必要に応じ警察等の保安機関と連携し検挙する。</p>
--------------	---

	<p>Ⅱ 漁獲物の販売促進</p> <p>①那智勝浦町水産振興会が主催する『いせえび祭り』において、ブランド「南紀黒潮イセエビ」を試食等でPRするとともに、集まった来客に直販を実施する。直売については、「浜値+1,000円」を目標にし、漁業者の所得向上に努める。</p> <p>② 紀州勝浦漁協では、わかめの生産～販売について収量に応じ、宿泊施設や飲食店における「期間限定」メニューに挿入し、漁業者の収益向上の見込みをたてる。また、多く収穫されたものがあれば、「にぎわい広場」等の直販でも限定販売する。</p> <p>③町内の旅館を主対象として、地域ブランド「南紀黒潮イセエビ」を、那智勝浦町の秋の味覚として料理や宿泊プランに採用するよう引き続き働きかける。3年目の成果をもとに町内の大手観光宿泊所全店の参画を促す。</p> <p>Ⅲ新規漁業就業者対策</p> <p>全漁業者は、県や県漁連、ハローワーク等と連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p> <p>以上の取組により、9%の所得向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>Ⅳ漁業経費の削減</p> <p>①全漁業者は、船底清掃による省燃油活動を徹底する</p> <p>②紀州勝浦漁協のイセエビ刺網漁業者は、近場の漁場や波の影響を受けにくい漁場に小型イセエビ及び雌イセエビの再放流を行い、漁場までに要する燃料使用量を削減する。</p> <p>③全漁協のイセエビ刺網漁業者は、漁具のこまめな補修と、漁網等の適正管理を行い漁具の耐用年数延長により漁具購入費用を軽減する。また、荒天時の出漁を制限することにより事故の防止及び漁具の摩耗を防ぐ。</p> <p>以上の取組により、3%前後所得向上を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>那智勝浦町稚貝稚魚放流事業、和歌山県磯根漁場再生事業、那智勝浦町水産振興会事業、那智勝浦町観光地魅力アップ事業</p>

(5) 関係機関との連携

<p>密漁対策については、和歌山県、和歌山県警、海上保安部他必要な機関と連携をとる</p> <p>Ⅳ新規漁業就業者対策は、水産庁、全漁連、県漁連、和歌山県、ハローワーク等と連携</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

養殖ワカメの出荷量	基準年	
	目標年	
新規漁業就業者数	基準年	
	目標年	

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業	つきいそ

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。